岡山県救護要員研修会

日時：令和8年10月25日（日）

会場：西大寺緑花公園　百花プラザ

令和８年熊本地震
活動報告

日本赤十字社岡山県支部 救護班第１班

日本赤十字社岡山県支部　事業推進課　主事　吉田 健志

2026/8/8 ～ 2026/8/13

02

活動サマリ



周辺インフラの状況

電力	○
水道	△
通信（携帯・Wi-Fi）	○
道路アクセス	○
宿泊・生活基盤	△
医療機関の稼働状況	△

03

CSCA と 1日のタイムスケジュール

CSCA – 指揮系統の枠組み

C – Command 指揮

宇城市保健医療福祉調整本部

S – Safety 安全

問題なし

C – Communication 情報共有

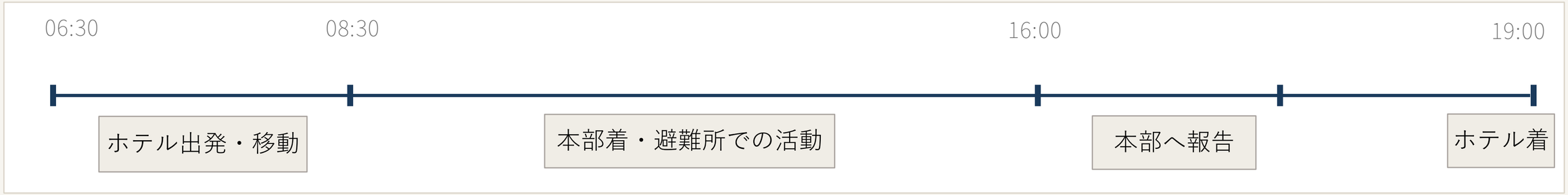
定期的なミーティング、LINEなど

A – Assessment 評価

活動前・後のミーティング



1日のタイムスケジュール – 06:00 → 19:00



04

注力した点

医療



避難所の環境チェック



こころのケア



05

困った事



事例（EPISODE）

特別養護老人ホームが避難所となってることが分かり、状況調査へ
話しかけても大丈夫だからと断られ、中の様子も

いつ／どこで

宇城市内の特別養護老人ホーム

何が起きたか

施設の周りの住民が避難してきている
施設職員が休みなく働いている

なぜ起きたか（要因）

だれにも頼れない状況

06

乗り越え方 – Before → After

BEFORE

工夫する前の状態

状況調査に伺っても、「大丈夫だから」と断られる
なんとなく大丈夫ではなさそうな雰囲気
断られているため、伺いづらい・話しかけづらい

AFTER

工夫を加えた後の状態

訪問を重ねると実情を話してくれるように
避難者へのケアだけでなく施設職員のケアも必要なことが分かった
DWATと一緒に訪問



KEY MOVE　決め手となった一手

医師・看護師の粘り強い傾聴の姿勢

07

★岡山で活かせる知見

1

知見のタイトル

こころのケアの重要性

岡山でどう活きるか

（活動時期にもよるが）日赤救護班の活動は、医療の提供だけではなく、こころのケアとは切れ離せない

2

知見のタイトル

他機関との協働

岡山でどう活きるか

様々な面で活動に限りがあるため、自分たちだけで完結しようとしない

3

知見のタイトル

想定にとらわれない

岡山でどう活きるか

少なからず出発前の想定と現地での活動はギャップがある
臨機応変に対応が必要

08

★岡山で準備すべき事

救護員としてのマインド醸成
- 指揮命令系統の意識
- 医療だけではない活動も現地にはたくさんある
- 自分がしたい活動ではなく、ニーズのある活動を



TAKEAWAY

想定通りには進まない中で最善の活動をチームや本部と考える。